



実りの秋 in 『にしこおり』

～チェック(確認)、チョイス(選択)、チャレンジ(挑戦)しよう!～

11月になりました。先月(10月)号に「とても暑かった夏がようやく終わりを告げ、秋の気配を感じる～」と書きましたが、その後も暑い日が続き、結局ひと月遅れの秋到来となりました。これに合わせたかのように、先月紹介した『ミヤマアカネ』(深山茜)が錦郡幼稚園に帰ってきました。実はこのトンボ、初夏には里山にいますが、真夏には高めの山に移動(避暑のためか)、秋になると再び里山に戻ってくるという生態を持っているとのこと。また、移動前はまばゆいばかりの黄金色をしていましたが、戻ってくると胴体は赤色、羽は赤銅色になっていました。(前後どちらも写真に収めていますので、園にてご覧ください)「きれい!」「すごい!」一緒にいたこどもたちからも歓声が上がりました。あらためて秋の訪れと自然の不思議さを感じる今日この頃です。

10月には、運動会(5日)、遠足(18日)、こすもすのつどい(23日)と、大きな取組がありました。それぞれ前日から複数の天気予報とにらめっこしておりましたが、こどもたちを先頭に『にしこおりファミリー』みんなの平素の行いがよかったので、雨も降らず無事に実施できました。こすもすのつどいでは、最後に雨が降ってきましたが、今年度は当初から遊戯室にて行うことにしていましたので、すべて予定通り行うことができ、お帰りの時間には雨が止んでいたというおまけまでつきました。『にしこおりの孫たち』は、『にしこおりのばあばたち、じいじたち』(こどもたちの一番多い呼称です)と一緒に、楽しいひと時を過ごすことができました。ご参加ありがとうございました。合わせて保護者のみなさんには、こどもたちへの日々の励ましや持ち物の準備等をはじめ、たくさんの応援とご協力をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

『日本の歪み』(養老孟司×茂木健一郎×東浩紀 対談集 講談社現代新書) という本の中に「虫が増えるような環境を考えることの中に、(人間や社会が)良い方向に変わるトリガー(きっかけ)があるのかもしれませんが。」(カッコ内は園長記入)という一節があります。こどもたちはもとより、大人も含めたすべての人間そして社会全体で、さまざまな環境について考え、具体的にゆったりじっくり行動していくことが、今こそ問われているのではないのでしょうか。『にしこおりのこどもたち』の自然環境への関わりも、一つのトリガーになることを願ってやみません。なお、日々の様子は、『にしこおり日記(毎日更新中)』『本園ホームページ』をご覧ください。今月もよろしくお願いいたします。

園長 塩野 義和